

# 2023 年度 事業報告書

2023 年 1 月 1 日～12 月 31 日



産官学民 協働事業

「浜中町 森里海をつなぐ シマフクロウ 地球の森づくり」

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

【2023 年度 事業報告書】

今年度は、「地域を潤しシマフクロウの未来もつくる取り組み」のより一層の推進に向けて、活動基盤となる調査・研究部門では、新たな調査・研究実施に向けてこれまで実施してきた給餌利用状況調査を詳細に分析し結果を取り纏めた論文を作成し投稿、正式受理となり諸準備を進めました。

保護・保全事業の環境保全部門では、地域住民に向けて、シマフクロウをはじめとした多様な生物の生息に不可欠な森から海までの大きな循環を視野に入れた水源域の森林環境の再生をさらに推進しました。次代にこの取り組みの意義を広めていくため、今年度から漁協青年部も参画しました。植栽で参画し 3 年目を迎えた小学校では、体験から学びが深まり自分事化が進み、高学年においては今後さらに多くの主体でこの取り組みを実施すべきと町に提案をし、体験学習の効果を実感することが出来ました。

こうした関係地域の創生を軸に、希少種をバロメーターとした生物多様性の保全や重要環境の保全活動は、町外においてもその重要性に理解や関心が広がっています。4 月には関西有名百貨店におけるイベント出展、また北海道外における高校生からの SDGs 学習等への問い合わせや対応など、多様な主体から、広報や人材育成の機会を頂きました。

各種普及啓発事業では、外部団体等との交流や、事業型連動寄付を通じた企業との協働、SNS や会報を通じて、町内外の個人・法人・団体・行政等と協働を通じて、シマフクロウの保護保全、生物多様性保全、地球環境の保全につながる取組を一層推進することが出来ました。

定款の 事業名	実施者	事業名	事業内容	時期	人数
<b>保護・保全事業 &lt;研究部門&gt;</b>					
シマフクロウ の保護・保全 及び支援する 事業	自団体	給餌の利用状況調査 	釧路総合振興局管内に生息するシマフクロウ1つがいが利用する給餌池の利用状況調査を通年実施した。赤外線カメラ映像による 24 時間体制で、給餌池に飛来するシマフクロウの1つがいと幼鳥の採餌状況、体重、利用頻度、繁殖行動等の基礎データを収集し蓄積した。また目視や鳴き交わしによる行動も記録した。	通年	1
	自団体	巣箱内調査	釧路総合振興局管内に生息する個体の繁殖時の給餌の利用状況及び本種の餌種を解明する調査を実施した。 2023 年 1 月から運用開始後、電気システムのトラブルが多々あったが、産卵・孵化の様子は確認できた。その後、個体がカメラにぶつかりアングルが変わったことによって、オスが運んでくる餌種やメス・幼鳥が食べた量や餌種などの判別は出来なかった。本調査は環境省のシマフクロウ保護増殖事業に成果を還元する予定で実施している。	1-7月	3

//	自団体	論文作成	<p>2017年1月から2020年1月における給餌の利用状況調査結果を解析した結果、給餌池以外の場所に遠征する行動が確認され、完全に人工給餌池に依存していないことが示唆された。この行動の多くは依然未解明であるが、解明しシマフクロウの行動圏の詳細を明らかにすることはこのエリアのシマフクロウの持続的な環境保全に繋がり、また将来人口給餌に依存しない自立に向けたステップとして重要であることから、基礎情報を知る周年生態解明を目的とするGPS行動圏調査が急務だと考えられた。その実行に向けて、「給餌の利用状況調査の関係者向け報告書」を作成し、3月に環境省及び関係者と共有し、概要版を環境省シマフクロウ保護増殖検討会議で関係機関等と共有した。</p> <p>さらに調査で得られた本つがいの給餌の利用状況調査を詳細に分析した結果と取り纏めた論文を作成し、環境省による地名等チェックを経て、年度末を越えた令和6年2月に論文を投稿し同月正式に受理された。令和7年3月に発行の運びとなった。</p>	1-3月  5-12月	4  4
シマフクロウの保護・保全及び支援する事業	自団体	繁殖確認調査 	<p>釧路総合振興局管内における3つがいの繁殖確認調査を適期に実施した結果、2地点で2つがいの繁殖を確認した。そのうち1つがいは例年よりも大幅に遅い産卵であったが、それぞれ1羽の幼鳥が巣立ちした。残り1つがいは繁殖の痕跡が確認出来なかった。</p>		1
//	自団体	補助給餌  補助給餌の実施	<p>釧路総合振興局管内の給餌池及び池に水を供給する井戸の管理として、活魚補充時の対応、死亡した活魚の除去、給餌池や井戸及び送水管の取付等維持管理、日中のワシ類等の食害対策を適宜実施し、シマフクロウつがいの繁殖を補助した。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日中のワシ等による活魚の食害対策は、フロートを給餌池に複数設置し魚が隠れる場所を確保し食害を防止し効果が発揮された。シマフクロウが利用する日没後から夜明け前迄の時間帯はフロートの数を減らす対策を毎日行った。</li> <li>・井戸水を給餌池に送る送水管が11月初旬に外れたため取り付け作業を行っ</li> </ul>	通年	4



		 <p>河川改修された川の再生</p>	<p>させ、河口や沿岸域における漁業には栄養塩供給の面で影響を与えることから、漁協と現状を共有し、行政に河川再生を要望し、解決への道筋が整理された。今年度は、河川が繋がっている方の支流の生物資源を確認する調査方法を検討し、途切れた支流と接続後の変化を比較する計画を作成した。</p>	9月	3
シマフクロウの保護・保全活動及び支援する事業	<p>自団体 北海道 浜中町 散布漁協 浜中漁協 散布小学校</p>	<p>生息環境の保全・再生</p> <p>協定事業(道有林) 浜中町 森里海をつなぐ シマフクロウ地球の森作り</p>  <p>採石跡地の水源林再生</p>  <p>漁協青年部も初参画</p>	<p>浜中町の太平洋側水系の水源地に位置する道有林では、近年、広葉樹の天然更新が進まず、川への土砂が増加し、水生生物が激減している。また鹿食害によって川沿いの広葉樹幼樹の育成が阻まれトドマツが侵入してくる傾向があり、今後さらに生物多様性の低下が予想されている。</p> <p>この現状を受け、2021年に浜中町、北海道、町内漁協、当法人で森づくり協定を締結し、今年度3年目を迎え、道有林内の2か所合計1500㎡に防鹿柵を設置し2か所合計1200㎡に植栽した。</p> <p>植栽方法は北海道の原生林を大規模に再生する目的で岡村俊邦ほっかいどう科学大学名誉教授が開発した生態学的混播混植法で行い、在来広葉樹を主とした25種160実生群ポット苗を、流域に関係する小学校全学年計23名と教員6名、浜中漁協・散布漁協(両青年部含む)、浜中町役場農林課、当法人のべ45名で植栽した。</p> <p>【防鹿柵の補修】</p> <p>2023年3月、川沿いのシカネットにエゾシカ1頭が絡まり、それをヒグマが捕食したためシカネットを破壊し1mほどの穴を開けられた。センサーカメラには、区域5か所内に野犬、キツネ、エゾタヌキの侵入が記録された。シカネットは補修直ちに補修した。</p>	4月 5月 6月	31
//	<p>自団体 グレートノース 茶内小学校</p>	<p>生息環境の保全・再生 (私有地)</p> 	<p>民間協働による酪農地帯の失われた水源域の小さな森林再生「シマフクロウの道再生プロジェクト「ワッカ」の一環。趣旨に賛同いただいた酪農家の土地約800㎡に防鹿柵設置し、植栽として生態学的混播混植法にて実生群ポット苗120ポットを茶内小学校4年生児童17名と教員1名計18名と実施した。</p> <p>植栽後、周辺河川における生きもの探しを通じ、森と川、シマフクロウの関係を体感した。また、かつて酪農業のために砂を採取した場所が現在のはため池と</p>	7月3日	22

			なりトンボ類が多数集まるビオトープとなった場所において土地提供をいただいた地主さんによるトンボ観察会も行った。 この体験学習は、土地提供者の地主さん、集水域の学校生徒の交流、水源林再生と周辺環境の良さ、酪農との関係を学び合う企画としている。		
<b>普及・啓発 事業</b>					
シマフクロウをシンボルとした環境教育事業	自団体 浜中中学校 茶内中学校 散布小学校	環境教育事業   水源地の自然体験  室内ミニレクチャー	環境保全事業(森と海のつながりを良くする森づくり)と連動し、流域に関係する学校の総合学習等に位置付け、環境バロメーターとなるシマフクロウを指標とした生物多様性と一次産業の関係について、体験的に学び一次産業者との交流も交えた企画案を作成し、浜中町内小中学校 3 校にて実施した。  室内レクチャー後、水源地にて植栽、学習の理解を深めるネイチャーゲーム等を実施。6 月に浜中中学校 17 名、7 月に茶内小学校 26 名、8 月に散布小学校 29 名、のべ 72 名が楽しみながら理解を深めた。  実施 3 年目となる小学校では、アンケート結果から新たな意欲の芽生えや発展的な思考が確認出来た。以下生徒のアンケート結果となる。 「中学生では学校で習った水源林について実際の体験を通じてとても理解が深まった。」小学生 3・4 年生では、「海を豊かにしている山の栄養についてもっと知りたくなった。」「シマフクロウが子育てに使う大木を自分たちが育てている。そんな大木を実際に見に行きたい。」小学 6 年生からは、「昔沢山の木を切って今、元の森を作っている、こういうことは皆でやった方が良い。町に提案をする。」子どもたちや教員の皆様からの感想や意見は今後の活動に参考に役立っている。	6/24 7/3 8/31	24 30 32
//	自団体、 浜中町、 環境省北海道環境パー	はまなか 環境意見交換会	シマフクロウの保護・保全にかかる課題と、関係地域の一次産業の資源保護など持続可能な未来にかかる課題と共通する点を明らかにし、本種の生息環境や生息可能域の保全・再生・拡大に寄与する地域づくりの一環として、「第 1 回はまなか環境意見交換会 ～みらい世代も豊かな自然を受け続けるには？	11月23日	50

	トナーシップ オフィス	 	<p>森と海をつなぐ川のはたらきを見直す～」を浜中町にて開催し、町長、教育長はじめ関係機関、町民約 40 名が参加した。</p> <p>基調講演として、川に依存するシマフクロウの視点で地域の自然の窮状を伝え、森と海の繋がりを良くする次代に継承する仕組みの提案等を行った。</p> <p>基調講演を受け、さらに多様な世代・業種の町民同士が少数グループとなり、新たな視点で地域の未来像や次代に豊かな自然を継承する方法について、意見・課題を出し合い発表を通じ、言語として皆で共有化できた。また次回へのテーマや期待も上げられた。開催にあたり、浜中町及び環境省北海道環境パートナーシップオフィスに後援頂き、新聞 2 社、広報はまなかに取材を頂いた。</p>		
広報事業	自団体	<p>ホームページ、印刷物による広報</p> 	<p>当法人の支援者様を対象に会報を 4 月、8 月、12 月に発行し、季節のシマフクロウの行動等の紹介、調査・研究、水源森再生、教育活動、関連ニュース等を紹介し、より一層当活動への理解や関心を深めていただけるよう努めた。</p> <p>随時、SNS やウェブサイトを通じ、シマフクロウが直面する課題や当活動、関連ニュースなどを発信した結果、国内外のべ 10 万人以上に広報を展開し、新たな支援獲得にも繋がった。</p> <p>団体パンフレットの微細な内容修正を行った。住所・寄付の名称、事業内容の更新を行い、イベント配布用、支援者向けに最低必要部数を増刷した。</p>	4 月、8 月、 12 月  通年  3月	400   不特定 多数   不特定 多数
広報事業	阪急阪百貨 店梅田本店	<p>イベントによる広報</p> 	<p>阪急阪神百貨店で開催された「60 周年記念 大北海道物産展」への出店依頼を受け、4 月 2 週にわたり週末イベント会場に 2 名ずつ出向した。講演、パネル展、募金、パンフレット配布等を行い、シマフクロウの現状や当活動について多数の新たなの方々にお伝えする機会となった。</p>	4/5～4/19	不特定 多数
//	釧路新聞社 北海道新聞 社、広報は まなか	<p>メディアによる広報</p>	<p>新聞社 3 社から計 6 回の取材、自治体広報誌・広報はまなかから 4 回取材を受け活動記事が掲載され、神戸市のラジオ番組にて 1 回で活動が紹介された。プレリリースを随時作成し記者クラブ等に投稿し活動周知に努めた。</p>	6 月、7 月、 8 月、9 月 10 月、12 月	不特定 多数

<p>上記に付随する事業</p>	<p>株式会社ダイナック、合同会社ピッコロ、株式会社アトリエ・モリヒコ、合同会社 NORTH CREATE、ソフトバンク株式会社 (順不同・継承略)</p>	<p>事業型連動寄付</p>  <p>サステナブルな取り組み 動画/出典: 株式会社ダイナック様ウェブサイト</p>	<p>事業型連動寄付は、当法人の活動趣旨に賛同いただいた企業・団体様等が当法人の社会貢献活動を PR いただきながら売り上げの一部をご寄付いただく winwin 事業です。</p> <p>2022 年から開始した飲食業界の株式会社ダイナック様と展開している「北国とミルク」事業型連動寄付では、浜中町の乳製品を使用したイタリアンメニューの売上の一部を寄付する取組として今年度のご寄付を頂いた。サステナブルな取組の一環で PR 動画もウェブサイトにて公開中。</p> <p>また事業型連動寄付始動以前に、同様の趣旨でご寄付戴いている法人様は以下の通りです。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・2020 年から開始した合同会社ピッコロ様にて展開しているシマフクロウオリジナルキャラクター雑貨による売り上げの一部を毎月ご寄付を頂いた。</li> <li>・2018 年から開始した古本募金ハピ本様、2019 年から開始した株式会社アトリエ・モリヒコ様、ソフトバンク株式会社つながる募金様から、今年度も引き続き対象商品の売上の一部をご寄付頂いた。</li> </ul>	<p>通年  通年  通年</p>	<p>不特定多数  不特定多数  不特定多数</p>
<p>上記に付随する事業</p>	<p>森里海を結ぶフォーラム実行委員</p>	<p>関連イベントの支援</p> 	<p>今年も、森と海をつなぐ水の循環や多様ないのちの繋がりについて、里に暮らす人々が見直す普及啓発イベント「第 3 回森里海を結ぶフォーラム」が開催され、宮崎県耳川が繋ぐ日向市と椎葉村が舞台となり延べ 100 名が参加。今年も主に広報にて支援を行い当理事 2 名が実行委員で携わった。日本の忘れられた伝統文化と環境保全を軸とした地域振興についての学びを得た。今後の当活動に活かしていきたい。</p>	<p>8-10月</p>	<p>112  2</p>

特定非営利活動法人 シマフクロウ・エイド

〒088-1366 北海道厚岸郡浜中町茶内橋北西 85 番地 TEL FAX : 0153-65-2183 Email : office@fishowlaid.jp Web : https://fishowlaid.jp/